

年金トピック

2024 年 7 月 9 日
団体年金事業部

予定利率と期待収益率との関係

確定給付企業年金（以下、DB）には、DBの給付を安定的に行うために「財政運営」という仕組みがあります。財政運営の仕組みを理解する上で「制度」と「運用」の2つの理解が重要です。

「制度」では、給付の予測を行うことで、どの程度年金資産を確保すべきかを考えます。

「運用」では、資産の運用を行うことで、どの程度年金資産を確保できるかを考えます。

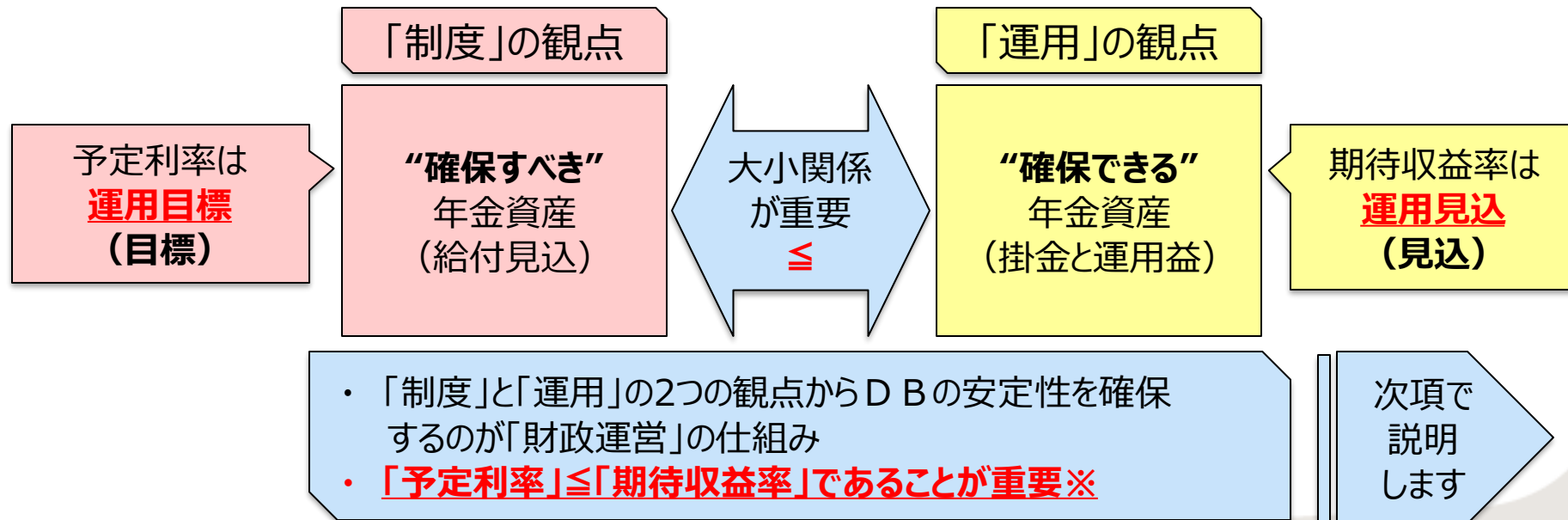
「財政運営」は「制度」と「運用」を踏まえてDBの給付が安定的に行えるかを確認し、必要に応じて掛金の見直し等を行うことでDBの給付の安定性を維持する“調整弁”としての役割を担っています。

本レポートでは、「制度」と「運用」の知識のうち特に重要な観点として「予定利率と期待収益の関係」を解説しています。確定給付企業年金制度の財政運営の一助としていただければ幸いです。

団体年金事業部 団体年金営業推進課
鈴木 武徳

1. 予定利率と期待収益率との関係

- 「財政運営」とは、「制度」と「運用」の2つの観点から **DBの安定性を確保する仕組み** です。
- 「制度」の要点は、給付を行うために、どの程度年金資産を**確保すべきか**です。（⇒ **予定利率**）
- 「運用」の要点は、給付を行うために、どの程度年金資産を**確保できるか**です。（⇒ **期待収益率**）
- 「制度」と「運用」を考える上で、重要な要素が「予定利率」と「期待収益率」です。予定利率は確保すべき**運用目標**、「期待収益率」は確保できる**運用見込**であり、それぞれ**目標と見込**の関係にあります。
- DB財政運営を安定的に行うためには、**「予定利率」≤「期待収益率」**であることが必要です※。



※ DB法において、予定利率は積立金の運用収益の長期の予測に基づき合理的に定められるものとされています。

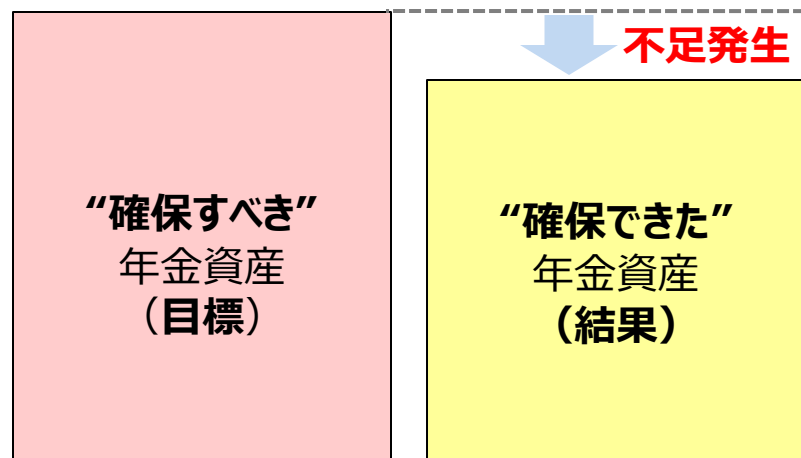
なお、簡易基準においては別途の定めがあります。

2. 財政運営の役割

- D B の給付を確実にを行うための“**調整弁**”が「財政運営」です。
- 安定的な財政運営を行うには**予定利率 \leq 期待収益率の関係が維持されることが重要**です。
- 予定利率 $>$ 期待収益率である場合、「運用目標」に対して「運用見込」が下回っている状況であり、**構造的に不足が発生しやすい状態にある**ため特に注意が必要です。
- 予定利率と期待収益率の関係によらず、運用の結果、予定利率 $>$ 運用実績の場合に不足が発生します。**“不足の構造”及び “不足の発生”を検知し、これを解消する仕組みが「財政運営」**です。

【財政運営の役割】

運用の結果、予定利率 $>$ 運用実績となり不足が発生した場合



- 毎年の**財政決算で“不足”を認識**（認識のみ実施※）
- 5年に1度の実施する**財政再計算時に“不足”がある場合には、“不足”を解消**するために掛金を増額
- 追加で**任意の掛金**であるリスク対応掛金の拠出も可能
- 不足の構造（予定利率 $>$ 期待収益率）がある場合に、運用の見直し等により**“不足の構造”の是正**を行う

運用環境の変化等により**期待収益率は変動するため、予定利率や運用方法の定期的な見直しが必要**です。

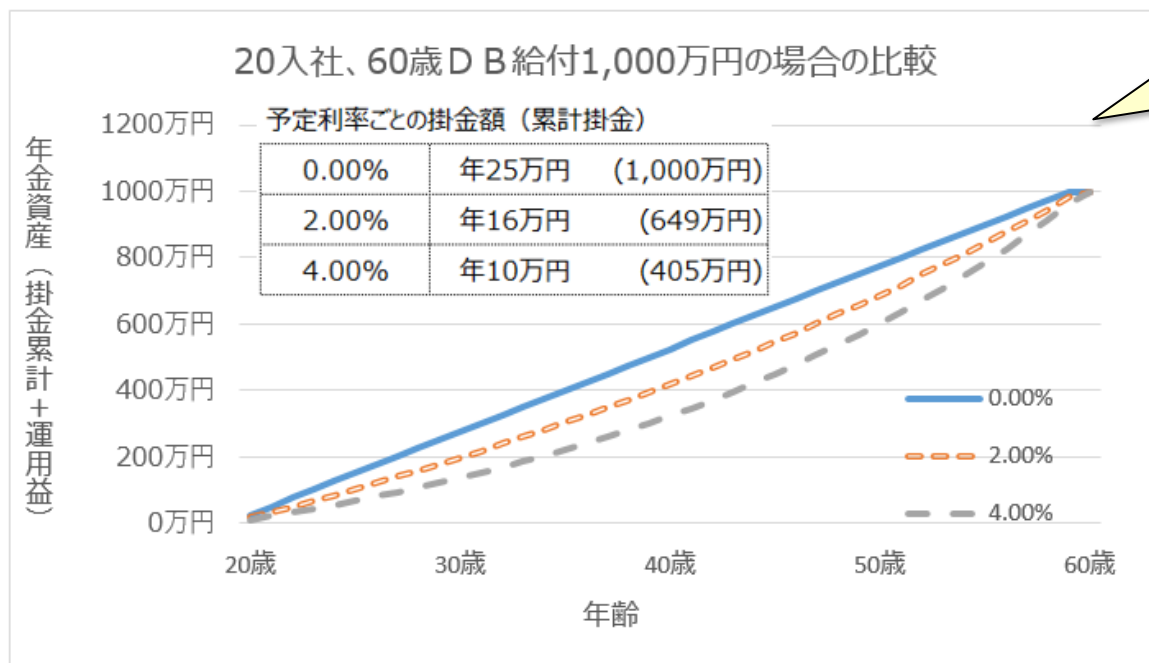
（例：財政決算時、財政再計算時）

※ 財政決算時であっても、不足が一定の水準（許容繰越不足金）を超える場合、掛金の見直しが必要になります。

3. 予定利率と掛金との関係

- DBでは、掛金（年金資産）が予定利率で運用される前提としております、そのため掛金は「給付 = 掛金 + 運用目標」の関係が成り立つように設定されます。
- 予定利率が高いほど掛金からより多くの運用益を見込むため、掛金は減少するのが一般的です。
- 2023年度の当社総幹事DBの予定利率の平均値は2.1%です。
- なお、他制度掛金相当額も予定利率変更により同様の影響を受けますのでご留意ください※。

下図は20歳入社、60歳時に1,000万円を給付する場合の掛金・年金資産の予定利率ごとの推移です。



- 予定利率を高く設定：
掛金(他制度掛金相当額)が減少
- 予定利率を低く設定：
掛金(他制度掛金相当額)が上昇

- 予定利率を高く設定する場合、期待収益率も相応に高く設定する必要があります。
- 実務上は、期待収益率を予定利率 + 運用コストと設定することが一般的です。

※2024年12月以降、確定拠出年金（以下、DC）における掛金の拠出限度額の計算に使用されます。具体的な影響としては、他制度掛金相当額が増加（減少）する場合、DC拠出限度額が減少（増加）する可能性があります。

4. 予定利率と期待収益率を考える上での論点整理

- 「予定利率」と「期待収益率」は、「**制度**」と「**運用**」の“**一体**”で検討する必要があります。
- 「予定利率」を高く設定し、掛金の負担軽減というDBの“良さ”を享受できる反面、「期待収益率」を高めた結果、**年金資産の変動（リスク）が大きくなり、予期せぬ損失を生むなど財政上の不足が発生する可能性**が高まります。逆に、「予定利率」を低く設定すると、掛金の負担は増えますが、リスクを抑制することが可能です。
- 「予定利率」と「期待収益率」の決定には、**上記の関係の中で適切な設定を探っていくこと**が重要であり、論点となるのは“**リスクを取る取らない**”ではなく、“**どの程度のリスクなら許容可能か**”という点です。
- 予定利率を引き上げることで掛金が減少します。当該減少分を賃上げの原資として活用することで、**トータルのキャッシュ負担を大幅に増やすことなく待遇改善につなげる選択肢**もあります。

	制度への影響	運用への影響
① 予定利率を高く設定する（引き上げ）	<ul style="list-style-type: none"> 掛金が減少する（キャッシュ減） 他制度掛金相当額が減少する 不足の発生幅が広がり、将来的な掛金増加の懸念が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> 高い期待収益率を達成するための運用の見直しが必要 リスクを許容することができるかを確認することが必要
② 予定利率を低く設定する（引き下げ）	<ul style="list-style-type: none"> 掛金が増加する（キャッシュ増） 他制度掛金相当額が増加する 簡便法を採用している場合、退職給付債務・費用が増加する 	<ul style="list-style-type: none"> 予定利率に合わせて運用の見直しが必要な場合があります 必要以上に高いリスクを取っていないかを確認することが必要